

質疑応答

1. 《ブランディング》 《コミュニティデザイン》
《シビックプライド》 《テリトリーオ》

とは何か？

- 主体性（地域のアイデンティティ）
- 地域のアイデンティティを表現し、促進するためのデザイン
- 継続的な成長（常にアップデート）
- それを支えるしくみ（テリトリーオ≠行政区分）

2. 温泉地への適用

- 日本における《テリトリーオ》や《ローカルガストロノミー》の可能性

(2)ドイツの温泉地に見る滞在型温泉地づくり



バーデンヴァイラー

- なぜ当地を訪れたのか

→ 由布院のまちづくりの原点ともいえる温泉地

- 1971(昭和46)年、中谷健太郎さん、溝口薫平さん、志手康二さんの有志3人が、まちづくりの手がかりを求めて2ヶ月間ドイツを放浪
- バーデンヴァイラーにて、これが由布院の目指す道であると開眼



3人の体験を、追体験しようとした



バーデンヴァイラーで気づいたこと

- 当時、由布院の3人が、現地の関係者から教えられた3つのキーワード＝「**緑・空間・静けさ**」



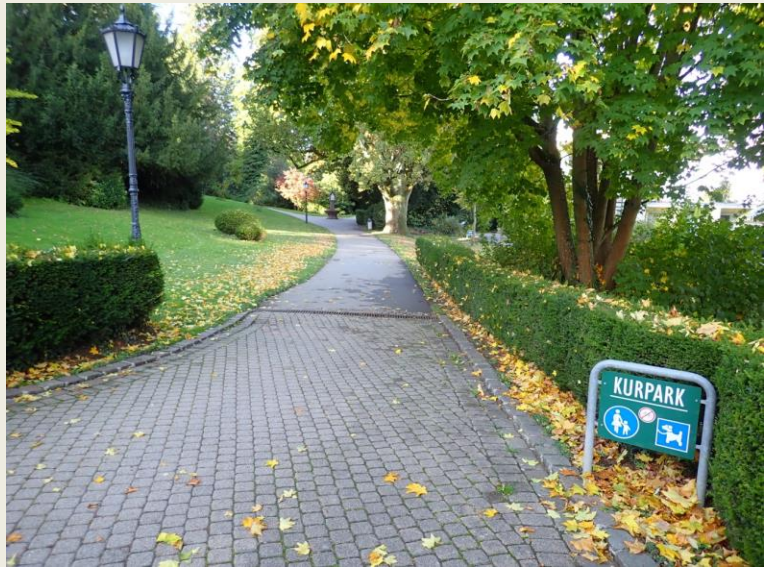
3つのキーワードを参考にしながら、私が気づいた5点

- ① 緑ゆたかな公園と変化に富んだ散策路
- ② 音楽ホールやラウンジなどを備えた文化交流施設
- ③ 運動機能プログラムを備えた温浴施設
- ④ 手頃な価格の宿泊施設
- ⑤ 域内および周辺地域へのアクセスの提供

⇒滞在型の温泉保養地に求められる要素

①緑ゆたかな公園と変化に富んだ散策路

温泉地の中心部に広大なクアパークがあり、散策路を通じて、
温浴施設・文化施設・展望台・ローマ時代の史跡・古城につながる



②音楽ホールやラウンジ等を備えた文化交流施設

滞在客向けのサービスを提供する「クアハウス」を設置
観光案内所・ホール・会議室・カフェラウンジなどが入っている

バーデンヴァイラーの
クアハウス



バートクロチンゲンの
クアハウス



③運動機能プログラムを備えた温浴施設



- 多数の浴槽とサウナ施設を備えた巨大な温浴施設
- およそ1時間ごとに、インストラクターによる自由参加の水中運動プログラムを提供
- ただし、入浴料は高い（3千円ぐらい：滞在客用に割引あり）

④手頃な価格の宿泊施設

- ・ 滞在したホテルは、シングルルーム1泊朝食付きで約8,500円
 - ・ 昼までに注文すれば、約3,000円で夕食をつけてくれる
- ⇒合計で1泊2食12,000円弱(当時の為替レートで)



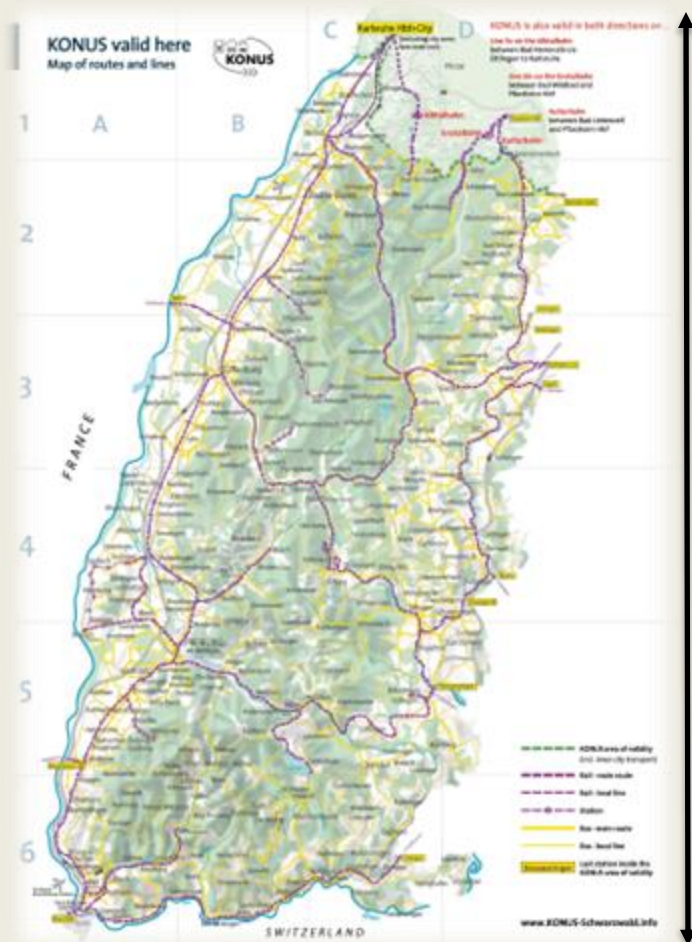
高級リゾートではなく、中流階級程度のお年寄りが1週間単位で訪れる場所

⑤域内および周辺地域へのアクセスの提供



←宿泊者に渡される“Gästekarte”(ゲストカード)
このカードを提示すると、温浴施設など、エリア内の施設が割引料金あるいは無料で利用できる

ゲストカードは、周辺一帯の公共交通機関のフリーパスを兼ねており、フライブルク都市圏を中心に、南北200キロに及ぶ広大なエリアが対象となっている。



南北
200km

なお、宿泊者には1泊あたり3.2ユーロ(450円ぐらい)の宿泊税が課せられる